

## 日経 BP・BizTech 図書賞，図書推薦

過去 1 年間（2002 年 7 月～2003 年 6 月）に国内で著作，発行された書籍で，日経 BP・BizTech 図書賞受賞にふさわしい図書をご推薦下さい。

著者名，書籍名，出版社と推薦のことばを添えて，2003 年 6 月 9 日（月）をめぐりにお送り下さい。推薦図書は，何冊でも構いませんが，前記の条件にご注意下さい。

推薦者指名：

著者名：野城智也

書籍タイトル：サービス・プロバイダー：都市再生の新産業論

出版社名：彰国社

推薦のことば：今後の建設業界のあり方として、スケルトン・インフィル型を中心とした業態が可能性を持つことは多く指摘されてきたが、本書はそれを比較的わかりやすく、また IT や環境による社会変動とうまくからめてまとめている。シンプルな書き方ながら、単なる業態提案にとどまらず、実際の建築デザインに与える影響なども検討されていて、一見すると簡単なノウハウ書のようながなかなか深みを持っている。逆に、簡単なノウハウ書に見えてしまうところが惜しい。もうちょっと詳しく書けたかも。

著者名：五十嵐太郎+大川信行

書籍タイトル：ビルディングタイプの解剖学

出版社名：王国社

推薦のことば：建築の外面的な意匠だけでなく、その機能にまでたしかえった空間構成を説明することで、時代の要請と建築空間との関わりをうまく歴史的に説明しおおせている。ミシェル・フーコーが監獄で行ったような、空間と権力システムの関係性を学校、病院など各種の建築についてまとめている。非常に手際よくまとまっているし、また調査もそれなりに深い。欠点としては、まあフーコーを読んで近年の権力論を多少なりとも理解していれば、だれでも思いつくか予想がついてしまう内容だということ。また、「それがどうした」と言われると非常に弱く、読み物としてはおもしろいが、その次への布石という点では弱い。

著者名：南部鶴彦、西村陽

書籍タイトル：エナジー・エコノミクス

出版社名：日本評論社

推薦のことば：電力を中心としたエネルギーに関する経済学的な知見を非常にわかりやすくまとめたよい本。これまで、電力に関する経済学的な理論書はいくつかあったが、き

わめて専門的で読みにくく、実務畑の人間がとうてい使うことのできないものだった。また従来の本は内容的にも古く、近年の電力自由化の動きや環境問題との関わりについてまともに採り上げたものはまったくなかった。本書はそのすきまを見事に埋めており、資源の埋蔵量、需給の波といった基本的な話から、価格決定方式や各種自由化のインプリケーションまで、理論面もおさえつつ、現場の人間でもわかりやすくまとめてあり、さらにエネルギーセクターの規制論まで話が展開されていて、現代的なニーズに見事にマッチしている。

著者名：丹下健三+藤森照信

書籍タイトル：丹下健三

出版社名：新建築社

推薦のことは：日本の建築業界、都市設計業界において丹下健三の存在の大きさは言うまでもないし、これまでかれについてまとまった論考がほとんどなかったというのは日本の建築界・出版界の信じがたい手落ち（雑誌別冊の写真集などはあったが）、それをまとめあげたうえ、歴史的な位置づけまできちんとなしおおせたという意味で、貴重な成果。バカ高いのが欠点といえば欠点。なんとか廉価版を出して、あまりモノを作りたがらないという近年の建築学生たちに読ませてやるべき一冊。

著者名：森川 嘉一郎

書籍タイトル：趣都の誕生 萌える都市アキハバラ

出版社名：幻冬舎

推薦のことは：秋葉原の変化をもとに、日本の都市や技術の構成原理が官主導から民主導、そして現在の個主導に変わっていった様子を描き出した、コロンブスの卵のような本。特に秋葉原に代表される一部の都市が、おたくの部屋の中をそのままぶちまけたかのような様子になっている点を指摘し、それが日本を取り巻く社会経済的な環境に大きく左右されてきたこと、そしてそれが日本だけでなく、韓国や台湾にまで伝わってきていることを指摘しつつ、われわれにとっての未来像の変化を見事に指摘した本。

著者名：橋爪 紳也

書籍タイトル：集客都市 文化の「仕掛け」が人を呼ぶ

出版社名：日本経済新聞社

推薦のことは：集客という観点から都市のあり方を見直したなかなかおもしろい本。自己イメージと他から見られているイメージとのギャップ、消費や遊びを中心とした都市の魅力づくりという視点は、各種のノウハウ本レベルでは見られたものの、まとまったものはあまりなく、その意味では新鮮。逆にいえば、ノウハウ本をある程度見ていた場合にはそんなに目新しさは感じられない。とはいえ、自分の都市なり地域なりが持つ魅力をよく

見極めて、それを演出でさらに強化せよというメッセージは明快。

著者名：吉原直樹

書籍タイトル：都市とモダニティの理論

出版社名：東京大学出版会

推薦のことは：未来としての都市空間の人氣が衰退してくる一方で、新しく IT 化やグローバル化、そしてそれに対するコミュニティ形成が都市形成に関するテーマとなっていることについて分析を行った本。分析は堅実な分、先ほどの「趣都の誕生」に比べると思考の飛躍が今ひとつなく、色気はない。よくいえばまじめ。各種の議論の俯瞰としては立派だが、将来的なインプリケーションへの言及がいま一つではある。

著者名：渡辺正+林 俊郎

書籍タイトル：ダイオキシン：神話の終焉

出版社名：日本評論社

推薦のことは：日本の環境規制のありかたに疑問を投げかけた画期的な一冊。ダイオキシンについての基本的な知識を簡潔に説明したうえ、そうした基礎知識すらもたずにデータを歪曲し、人々を脅し続けた NPO の手口、そしてそれを利用しつつ成立してしまった、世界的にも異様なダイオキシン法とその影響についてまとめつつ、過度の騒動を戒め、正しい適正な環境規制を訴える本。従来、環境規制を厳しくするのがえらい市民で、それに反対するのが企業や行政、というイメージをくつがえし、環境規制を利用しようとする企業や行政もたぶんにあるのだということを明確に指摘し、従来、環境問題の安易な見方に一石を投じている。

著者名：岩井克人

書籍タイトル：会社はこれからどうなるのか

出版社名：平凡社

推薦のことは：まともな意味できちんと説明されることの少なかった「会社」という存在を、まさかの象牙の塔の学者がここまできれいに書ききれるとはだれも思わなかったであろう。

著者名：武村 雅之

書籍タイトル：関東大震災 大東京圏の揺れを知る

出版社名：鹿島出版会

推薦のことは：なかなか実感としてつかませにくい災害への感覚を、関東大震災のデータを利用することで非常にわかりやすく提示しており、今後の防災的な都市づくりについて考えさせてくれる。

著者名：日本建築構造技術者協会編

書籍タイトル：日本の構造技術を変えた建築100選 戦後50余年の軌跡

出版社名：彰国社

推薦のことは：おそらくは、規定違反だろうけれど、一応建築における構造という裏方の働きをまとめた本。表面のデザインがどうあろうと、構造面での突破口があってはじめて各種の都市風景が可能となっている。そうした意味で、このような裏方の技術革新をまとめてくれた本書は貴重。おしむらくは、過去の歴史だけで今後の展望には欠けること。

著者名：広瀬 通孝+田村 善昭+小木 哲朗

書籍タイトル：シミュレーションの思想

出版社名：東京大学出版会

推薦のことは：一時はやった「バーチャル都市」的なものの見方を、実際に使われているシミュレーションの側から見直してその有効性や威力をまとめるとともに、今後の意義についてまとめた本。従来の評論家による能書きではない、現実的な現場の視点から見た思想、および可能性の本として評価できる。ただしそのぶん、ちょっとおかためなのは、まあ仕方ないか。

連絡先

山形浩生

hiyori13@alum.mit.edu